

介助が必要な利用者の食事について

2年7組12番 名前 大橋 佳奈

2年7組26番 名前 田中 千乃

実習施設：特別養護老人ホーム 南生苑

問題設定

- ・学校で食事とは生きるために行う行為、楽しく食事をするのが生きる喜びや楽しさを実感させ心を安定させることができると学んだ。
- ・実習していく中で、拘縮や嚥下機能が低下している人や意思疎通が難しい人の介助ではどのような工夫をしているのかに興味を持った。

介護場面の実際

- ・80代女性(Aさん)
- ・意思疎通が難しい(うなずきはあるが会話ができない)
- ・食事形態はミキサー食
- ・時々口を開けてくれる。(甘い物の時に開けてくれた)
- ・嚥下が悪い。(飲み込みが遅いため)

Aさんの食事介助時

- ・エプロンはタオル素材のエプロンを使用。
- ・音楽はラジオを聴いていた。
- ・スプーンはプラスチックを使用。
- ・食事形態はミキサー食。
- ・両脇にクッションを挟んで、姿勢を保っていた。

考察

- ・ミキサー食について

メリット→他の人と同じ食材を使い食べることができる。

嚥まなくてよい。

デメリット→ ①ドロドロとした液状の為、口の中でまとまりにくい。

食べ物を出してしまったり、溜めてしまう。

②嚥まなくても喉まで入ってしまい食塊が作れない為
誤嚥につながる。

③常食よりも量が増える。

④食感がなくなる。

デメリットを改善するには

- ①、② 口の中でまとまりにくいので、トロミをつけて食塊をできやすくすればいいのではないかと思う。
- ③食事の量を常食の利用者と同じにして取れなかったカロリーをおやつや水分補給のなどの時間に大目に摂取する。
- ④少しでも押しつぶせることができる利用者なら、1品だけでも柔らかく調理したものやそのままでも食べられる状態など、なるべく原型で食べられる食事にする。

・座位が保てない利用者の食事時の姿勢について

体がずり落ちたり、姿勢を保持するために左右のアームサポートの傍にクッションをいれる。
首が伸展しないように頭受けを使っていた。
リクライニング式の車いすを机の高さに合わせて調節する。

・介護者側からの注意点

利用者を観察して、喉の動きと表情をみて
タイミング・リズム・ペースを合わせる。
脱水症状にならないようにこまめに水分補給をしてもらう。

参考文献

川井太加子/生活支援技術Ⅰ基本編/出版社：株式会社/メヂカルフレンド社/
平成24年2月10日

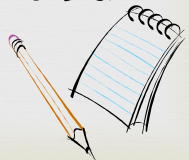
介助が必要な利用者の食事について

実習施設：特別養護老人ホーム南生苑
2年7組 12番 大橋 佳奈
 26番 田中 千乃



テーマ設定の理由

- ☞ 学校で食事とは生きるために行う行為、楽しく食事をすることが生きる喜びを実感させ心を安定させることができると学んだ。
- ☞ 実習をしていく中で、拘縮や嚥下機能が低下している人や意思疎通が難しい人の介助ではどのような工夫をしているのかに興味を持った。



介護場面の実際



- ☞ 80代女性(Aさん)
- ☞ 意思疎通が難しい。(傾きはあるが会話ができない)
- ☞ 食事形態はミキサー食。
- ☞ 時々口を開けてくれる。
- ☞ 嚥下が悪い。(飲み込みが遅いため)



Aさんの食事介助時



- ☞ エプロンはタオル素材のエプロンを使用。
- ☞ 音楽はラジオを聴いていた。
- ☞ スプーンはプラスチックを使用。
- ☞ 食事形態はミキサー食。
- ☞ 両脇にクッションを挟んで、姿勢を保っていた。

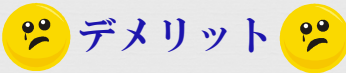


考察



メリット

- ①他の利用者と同一食材を食べることが出来る。
- ②嚥まなくてよい



デメリット

- ①ドロドロとした液状の為、口の中でまとまらない。
- ②嚥まなくても喉まで入る→誤嚥
- ③常食よりも量が増える。
- ④食感がなくなる。

食事形態

カット

常食

ミキサー食

超刻み



見た目や色どりに気を配っている。
管理栄養士さんとお話をしてミキサー食の利用者の食事は特に見た目・色を重視して調理を行っていると言っていた。

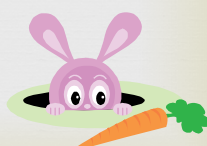




デメリットを改善するには



- ①、② トロミをつけて食塊を出来やすくする。
- ③ 食事の量を減らし、取れなかったカロリーを水分補給などの時に取る。
- ④ 1品だけ柔らかくした物・原型でも食べれる物にする。



座位が保てない利用者の食事時の姿勢



- ☞ 姿勢を保持するために左右のアームサポートの傍にクッションを入れる。
- ☞ 首が伸展しないように頭受けを使っている。
- ☞ リクライニング式の車いすを机の高さに合わせて調節する。



介護者からの注意点

- ☞ 利用者を観察し、喉の動き・表情を見てタイミング・リズム・ペースを合わせる。
- ☞ 脱水症状にならないように、こまめに水分補給をしてもらう。



ご静聴有難うございました！

お世話になった施設の職員方・先生方

15日間ありがとうございました。

